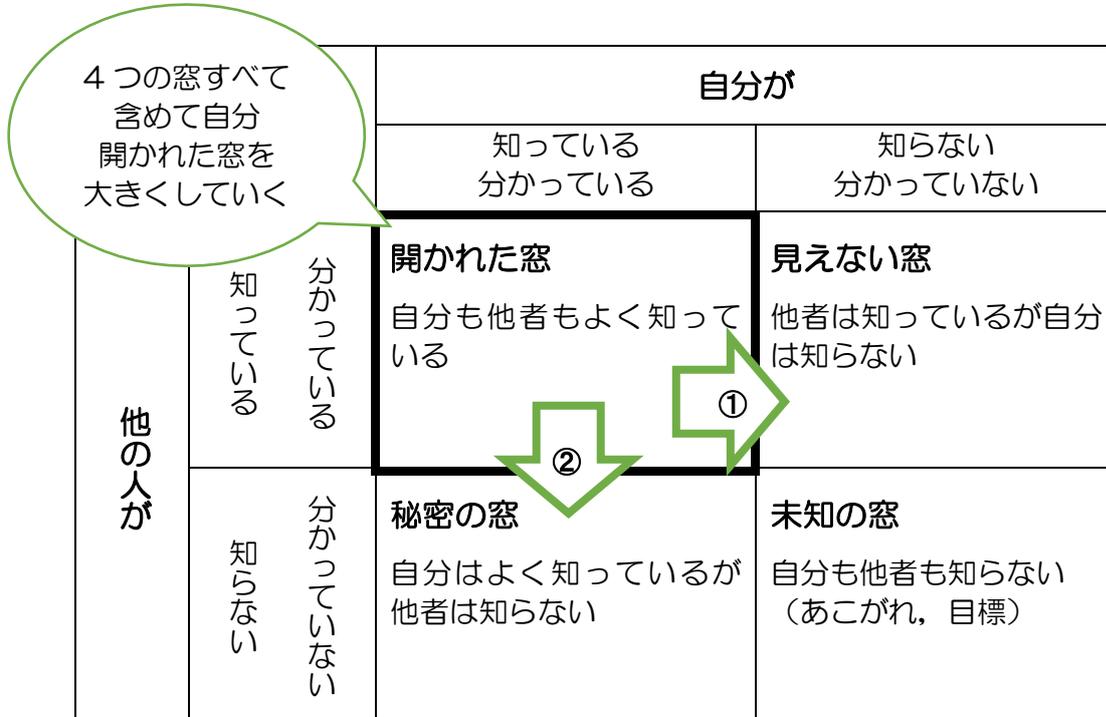


ジョハリの窓

2022・10・11 重枝 一郎

年度初めの職員会で話したが、生徒対象にも授業化できるので再度話す。



「ジョハリの窓」とは、「4つの窓」と言い方もする。

人は自分で、自分とはこんな人間だとわかっているのではない。「あなたってこうだね」とか、他者からフィードバックをもらって、自己を確立していく。

私は、「お互いが教科書」という言葉をよく生徒に話していた。つまり、友だちや先生は、自分を成長させる「教科書」なんだという発想は、自分も誰かの「教科書」になっているということ意識することにつながる。普段は気付いていなくても、人は人とのつながりの中で「自分づくり」をし、成長していくのだと実感できる。そして、人と交流することでしか、自分の「自己盲点」に気付くチャンスはないということもわかる。つまり、自分を成長させるのは、人とのかかわりなのである。このことは、常日頃から私が発信している「ひとりにもなれる(自分磨き)・ひとつにもなれる(人は人で磨かれる)」につながる。そしてそれは、人とのつながりのありがたさに気付く瞬間にもなると思う。

人はこの「4つの窓」を通して人とかかわり、コミュニケーションをとっている。開かれた窓が大きいほどコミュニケーションが円滑でスムーズになり、この窓をひろげることが、自分自身と他の人、お互いの成長を促進していくことにつながる。

自分の「開かれた窓」が大きくなるということは、「他の人からの話を素直に受け入れる(上図①の矢印)」「自分の心をオープンにする(上図②の矢印)」ことが大切になる。まわりとのコミュニケーションが円滑になるということは、同時にまわりの方の「開かれた窓」も大きくしていることになる。これが、学校のポジティブスパイラルを生み出します。まさに「自分よし・相手よし・みんなよし」である。

「自己理解＝自尊感情＋自己盲点」

高2の先生方、修学旅行行ってらっしゃい！！
「開かれた窓」が大きくなるチャンス！